

京都御池中学校生徒・保護者・けやき委員・教職員アンケート 結果と考察

平成30年3月7日
けやきプロジェクト理事会

〔アンケート調査実施時期等について〕

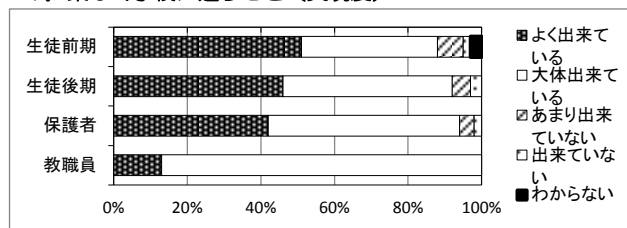
生徒アンケート 前期：7月 後期：12月 保護者アンケート：12月 けやき委員アンケート：2月 教職員アンケート：1月

〔アンケート結果の検証について〕

教職員研修、2月けやきプロジェクト・学校評価委員会で検証を行い、さらに3月のけやきプロジェクト理事会（学校運営協議会）で検証・確認を行った。

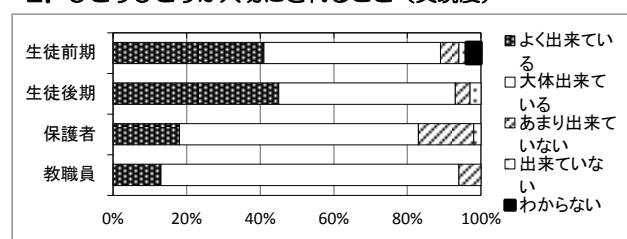
A：生徒（前期・後期）、保護者、教職員アンケート結果の比較

1. 楽しく学校に通うこと（実現度）



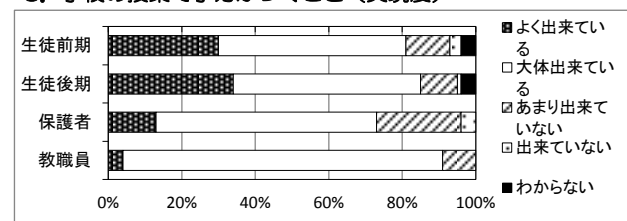
「出来ている」が全体として9割超で「よく出来ている」も5割近い結果がみられる。いろいろな活動に取り組む中で「居場所」が築かれていることが考えられる。生徒前期から後期にかけて「よく出来ている」は減少したが、「大体出来ている」が伸びている。「出来ていない」の割合が減少する結果から、全体的には良い傾向が見られる。限られた条件の学校活動で、企画・準備を工夫しながら、生徒が日々を送る環境をこれからも整えていきたい。

2. ひとりひとりが大切にされること（実現度）



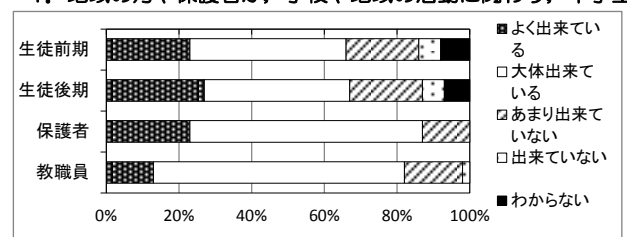
生徒・保護者・教職員も9割近くが「出来ている」と回答している。生徒の回答では「よく出来ている」が他と比較すると割合が高い。また後期に伸びが見られる。日々の関わりの中で実感が高まっているものととらえる。保護者の「あまり出来ていない」の回答が他に比べて多い。生徒の頑張りや教職員との関わりなどを、一層わかりやすく伝えていく必要がある。生徒との関わり方など意見交流・情報共有を図り、生徒はもちろん保護者にも「大切にされている」と伝わるような関わりを構築していきたい。

3. 学校の授業で学力がつくこと（実現度）



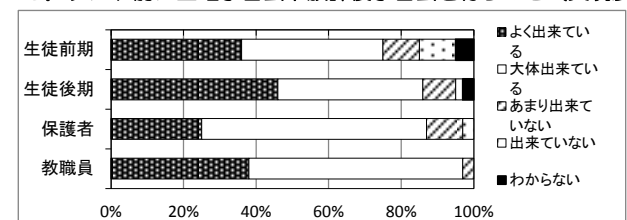
学校教育全体の中でも、特に期待が高い部分と考える。生徒、教職員の回答は「出来ている」が8割超の結果を得ている。どの結果も昨年度より伸びている。反面、保護者の回答は「（あまり）出来ていない」が3割近くを占めている。学力＝テストの点ではないことも含めて、生徒の学習状況を参観や説明会・懇談会などの場を活用して丁寧に伝え、学校の取組を理解して頂くことが必要と考える。教職員については、学習指導要領の改訂に向けて、さらに指導法の改善等を進めていく必要がある。

4. 地域の方や保護者が、学校や地域の活動に関わり、中学生と身近にふれあうこと（実現度）



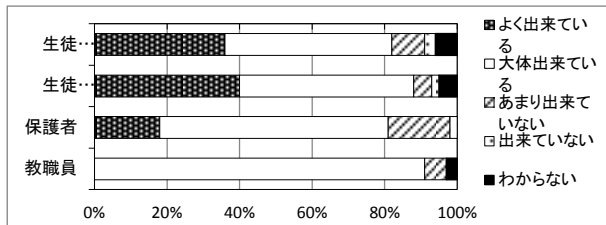
生徒の回答で「出来ている」は7割弱、生徒にとっては、地域の活動では身近に感じることはあっても、学校の活動に地域・保護者の方がどのように関わっていただいているのか、わかりにくいのが現状であろう。保護者の回答で「出来ている」が9割弱である。学校行事等に参加していただいたことを反映していると思われる。生徒にはいろいろな活動の基盤に、地域や保護者の支えがあることを意識させていきたい。教職員においては、ねらいや方法を丁寧に伝えていく必要を感じる。

5. テスト前に土曜学習会や放課後学習会を行うこと（実現度）



生徒の回答で「出来ている」は8割超の結果がえられた。昨年よりも2割弱の増加が見られ、学習会にも積極的に参加する姿勢が見られた。どのようにしたら生徒にとって良い学習会となるかを考えながら取り組んできた結果と考えられる。今後も生徒だけでなく、保護者にも学習会の案内を周知していくことが大切と考える。教職員は、学年体制で取り組んでいることが、9割超の回答に結びついているようである。

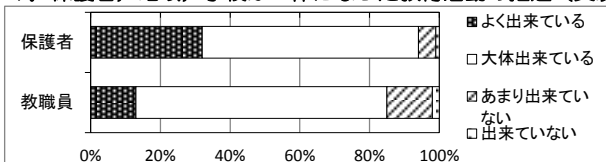
6. 学校は相談しやすい雰囲気があること(実現度)



全体として「出来ている」が8割超で、生徒後期に伸びが見られる。様々な取組を通じて話したり、進路に向けての相談をしたりする機会がもたれた結果と考える。教職員の回答で「大体出来ている」が9割超であることは評価に値する内容ととらえる。生徒との時間の共有を意識したこと、教育相談の時間の確保を考慮した結果があらわれたものと考察する。

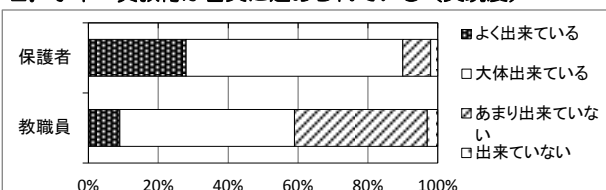
B: 保護者、教職員アンケート結果の比較

1. 保護者、地域、学校が一体になった教育活動の推進(実現度)

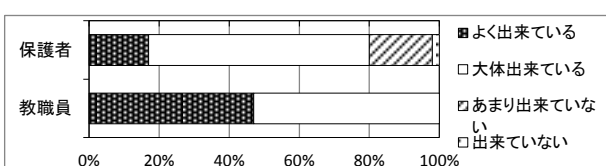


保護者の回答は1「保護者、地域、学校が一体になった教育活動の推進」2「小中一貫教育が着実に進められている」について、ともに「出来ている」が9割近くで、本校の学校教育活動の柱をなす取組である「けやきプロジェクト」や小中一貫教育などに保護者から一定のご理解をいただいていることがうかがえる。その反面、教職員の回答では特に2において「あまり出来ていない」が4割強ある。小中一貫教育に実際に向き合う教職員が抱える課題を共通理解し、改善を図ることが迫られている。小中一貫の取組は、全国学力・学習状況調査のB問題や学習確認プログラムの結果などで成果を見せている。今後も取組のどこに課題があるかを探り、学力の向上と生徒の心身の成長につながる活動をめざすことが大切である。「学校の様子が変わる」に関しては、学校便り、日々更新されるホームページをはじめ、学級通信など多くの発信を行っているため、教職員の実現度は高くなっている。さらに発信の工夫・深化を図り、学校の教育活動への協力・参加を進めるようにしたい。

2. 小中一貫教育が着実に進められている(実現度)

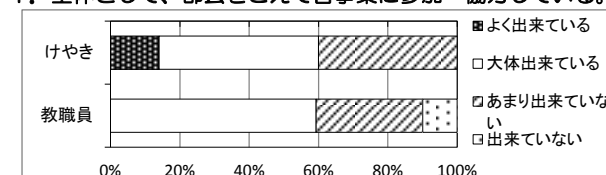


3. 学校からの情報などを通して、学校の様子がわかる(実現度)

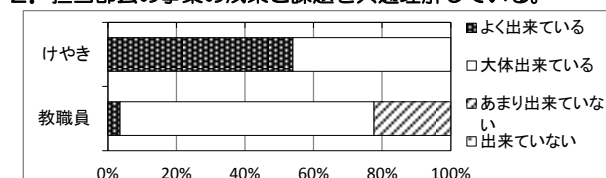


C: けやき委員、教職員アンケート結果の比較

1. 全体として、部会をこえて各事業に参加・協力している。



2. 担当部会の事業の成果と課題を共通理解している。



「けやきプロジェクト」の各事業は、各部会が企画・運営にあたり、所属する部会の中で検討し、連絡調整・分担や準備を行い活動している。このような中、1については、けやき委員の他の部会の事業への参加・協力は「あまり出来ていない」が4割である。「けやきプロジェクト」の全体会が昨年より1回少なくなった事で、連絡や情報の共有が手薄になったと考える。全体会での呼びかけの工夫や、情報の発信の工夫など、横のつながりを強くする必要があると考察する。2について、「担当部会の事業」について十分内容を理解して取り組めたことがうかがえる。これまでの取組の反省を活かした結果が表れたと考える。教職員の構成はここ数年で様変わりしている。「けやきプロジェクト」の取組について、研修を通じて教職員の共通理解を高めていく必要性を感じる。

D: まとめ

生徒アンケート・保護者アンケート・けやき委員アンケートの結果全体として、「出来ている」という回答項目は多く、ここ数年と同じくおおむね「信頼される学校づくり」が進められていると考えます。教職員のアンケートの結果は、開校以来進められてきた多様な取組について、十分に共通理解されたものになっているか、意欲と意識をもって臨まれているか、と問い直す必要性を感じさせるものとなっています。今年度けやきプロジェクトの部会の編成を行いました。また新学習指導要領のスタートを控えた今、これまでの取組をさらに改善・修正を重ね教育活動を進めていくことが肝要と考えます。今後も保護者・地域の皆様方からご意見をいただき、学校・家庭・地域が一体となつてつくりあげる学校教育活動の推進をめざしたいと考えております。ご理解・ご協力のほどよろしくお願いいたします。